

「日々の理科」(第 1475 号) 2018 (H30), -7, 20

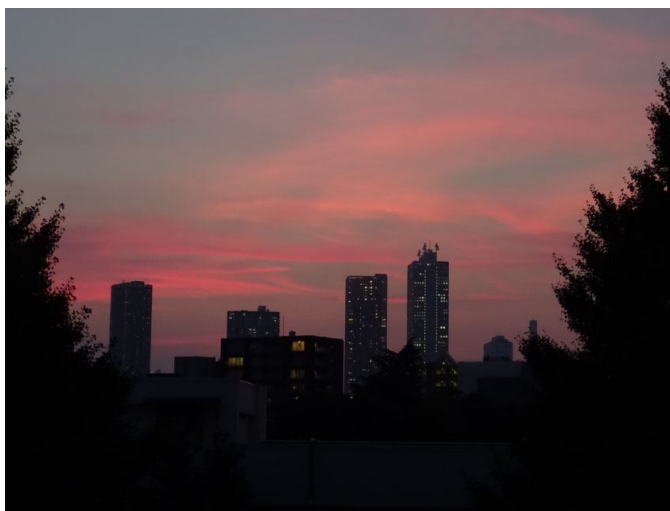
## 「屋上で ISS を観る」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

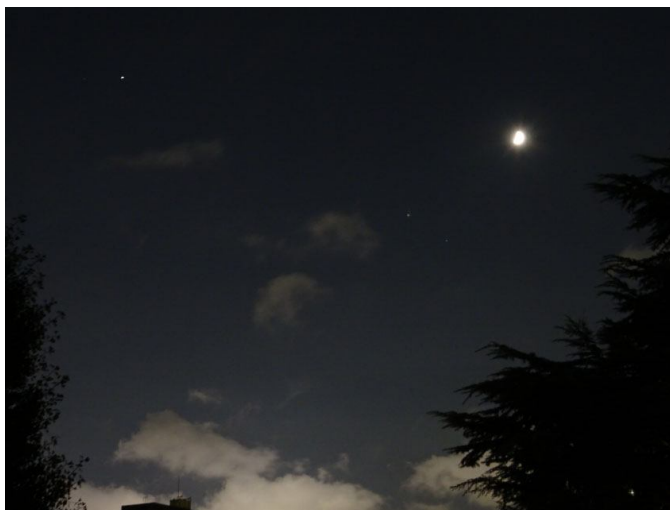
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

昨夜の ISS (国際宇宙ステーション) の関東上空通過はかなり条件が良く、晴れていればほぼ 100% 観望可能だろうと予想していた。3 年生から 6 年生までの児童全員に、アナウンスのプリントを配布しておいた。私自身も必ず見ようと思い、終業式前夜の事務作業をしながら、20:40 を待っていた。



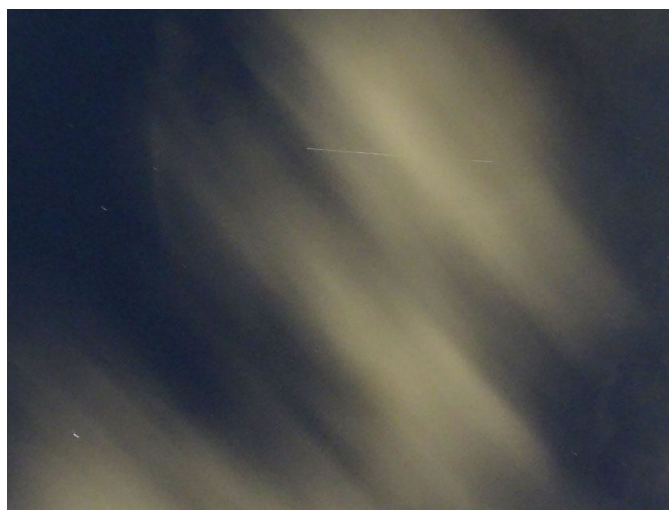
この日は晴れ。ISS が昇って来る、西～南西の空は、雲はあるものの、おおむね良い天気だ。これは期待して良さそうである。



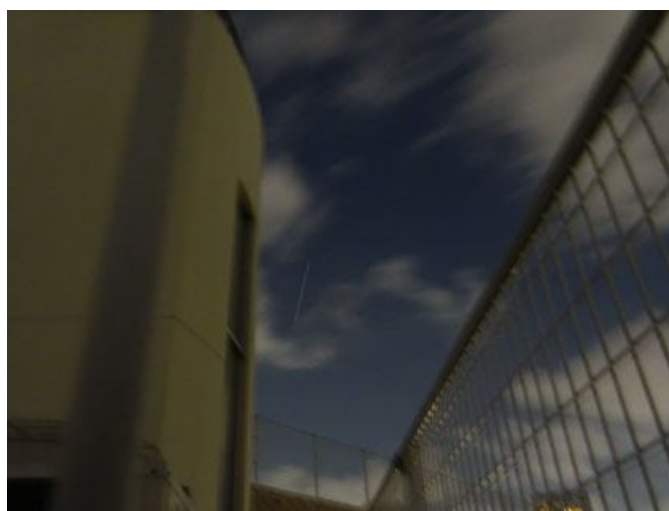
20:40、やはり遅くまで仕事をしていた同僚と屋上に上がって、ISS の出現を待った。「たぶん月のあたりから昇ってきますよ」と同僚に説明。果たして 20:43 頃、月の左下に、明らかに動く光の点が出現した。間違いなく ISS だ。



i が ISS、m が月 (上弦)、s は土星である。ISS は地平線に近い場所では、観測者との直線距離が 1000km 以上あり、まだ暗くゆっくりに見える。



しかし数分後、天頂付近に達すると、急に明るく速く動くようになる。写真では雲に隠れているが、それでも ISS の軌跡が線になって写っている。この日、観測者と ISS の最短距離は、400km 余りだった。



ISS は 90 分で地球を一周する。数分後、ISS は足早に北東の空に沈んでいった。美しい光景だった。